



わたしの夢

川俣小学校6年

鳴原結生^{ゆい}

優しく手を差し伸べられる
保育士になりたい

わたしの夢は、どんな時でも園児に優しくできる保育士になることです。私は2年生の頃まで園児の時に優しくしてくれた保育園の先生に憧れてぼんやりと保育士になりたいと思っていました。5年生になった時に、わいわいクラブや学校の休み時間に1年生の子たちと遊ぶことや勉強を教えることが増え、自分はやっぱり誰かに優しくすることが好きで、その時から明確に保育士になりたいと思うようになりました。保育士になりたいということを以前、両親に話したことがあります。親に話したことがありますが、「結生ならなれると思うよ」と二人とも背中を押してくれています。保育士という仕事は、1人でたくさんの園児たちの様子を見なければならず、臨機応変な対応や迅速な判断が求められるため、とても大変な仕事だと思います。しかし、憧れの保育士になれるように今後も習い事のピアノや勉強を頑張ったり小さい子たちの世話をしたりして知識と経験を増やしていきたいと思っています。

町長のひとこと vol.39



ニホンミツバチの分蜂は、例年5月の連休頃から盛んになりますが、今年は温暖化の影響で分蜂が少ないと聞き、心配でした。新聞記事で「人類に恵みを与える身近な生き物が苦難の時代を迎えている」という言葉を見て、平成15年、福島県の事業で開催され、私自身も参加した「循環型社会づくり研修」でドイツの里山と農村を訪ねたことを思い出しました。研修では、ストーブ用薪の計画的伐採により蜜源植物を守ることで、蜜蝋で蠟燭製作をするためミツバチは農村の生活に重要な役割を果たしていることを学びました。ドイツ研修から約20年、近年、日本では蜜源植物の面積が全国で減ってきています。人による山野開発も一因と考えられる中、福島県養蜂推進協議会では、ミツバチの大切さを多くの人に知ってもらいミツバチを守るため、県内で蜜源を増やす構想を進めています。素晴らしい構想だと思いました。